琉球大学 教授職員会ニュース 第138号

2012年12月3日　琉球大学教授職員会　（内線 2023）
E-mail: kyoshoku@eve.u-ryukyu.ac.jp　http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~kyoshoku/

『三者連絡会ニュース』でお知らせしましたとおり，今年度第２回目の団体交渉が行われ，その質疑において以下のことが明らかとなりました。

大幅給与削減、誠実なる交渉を！

７月に強行された大幅給与削減は，全国の国立大学法人の 78 法人（87%）で行われました。団体交渉で明らかにされましたが，すべての大学が琉球大学のように唯々諾々と給与削減を行っているわけではなく，その対応は大学によってかなり異なっています。例えば，北海道大学では，今回の賃下げに関して，組合との間で計５回の団体交渉を行い（もちろん妥結することはありませんでしたが），９月１日まで賃金減額を遅らせています。また，削減率を圧縮したり，若手や医療職については賃下げを行わないこととした大学もいくつかあります。それらと比較しても，琉球大学の対応は極めて不誠実です。

法人化によって、学長とその周辺に権限を集中させ、効率的な大学運営が目指されるようになって９年。この間，様々な規則や規程の策定をめぐって，難しい交渉も重ねられました。図らずも，一時は交渉が理解されず，労基署や労働委員会の判断を待つようなこともありました。それでも最後まで諦めず，双方の努力によって信頼関係を維持しながら進んでくることができました。しかし，今回過半数代表者の選出をせずに，給与削減を強行した学長および経営責任を負う理事の皆さんに，私たち教授職員会は強い憤りと大きな失望感を感じています。

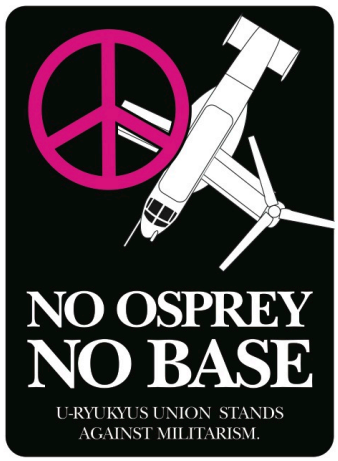
本来，団体交渉とは，交渉を重ねていく中で，これまで積み上げてきたはずの労使の信頼関係を壊すことのないよう，互いを尊重する精神によって支えられるものです。大学運営のみならず全構成員に関わる重要な決定が，現場の声を聴くことなく進められたり，十分な説明もなされぬまま，議論すべき事項をあたかも決定を通達するような一方的な推し進め方が，如何に信頼を損なうかは明らかです。このような独断専行的手法は，リーダーシップとは言いません。なかんずく，大学運営の根幹にかかわる団体交渉の議事録は，検証するためにも，きちんとした記録が公開されるべきで，それを拒否したり省略できると当局が考えているとすれば、これは甚だ異常な事態と言わざるを得ません。

不安と危険に脅えることのない教育環境の実現を!!

そして，米軍機が轟音と共に飛来通過し，講義がしばしば妨げられる異常な状況は，もはや受忍限度をはるかに超える事態です。大学の教育研究環境の平穏と安全を確保することは大学の権利であり義務です。新聞で報道されるように，国立沖縄工業高等専門学校長や県内私立大学学長が，オスプレイの配備反対と飛行中止を，先頭に立って求めています。

教授職員会は，沖縄の歴史と現状を踏まえ，国際平和と正義を説く使命を担う大学人として，軍用機のキャンパス上空の飛行禁止，米海兵隊普天間飛行場の閉鎖を求め，MV22 オスプレイの運用及び関連米軍施設の建設に，大学として反対を表明し，米兵による女性暴行事件，住居侵入暴行事件等の蛮行に対し強く抗議するために，その意思を込めたステッカーを作成しました。

今こそ岩政学長には，社会に開かれた大学としての使命に従い，大学憲章に平和への貢献を掲げる琉球大学の長として，大学構成員の先頭に立ち，時宜を踏まえた抗議を行い，責任ある対応をするよう強く求めていきます。



★教授職員会は皆様のご入会を歓迎いたします。年会費 6000 円。詳細は Web で。
★e-mail でのお申し込みも受け付けております。kyoshoku@eve.u-ryukyu.ac.jp